

デジタル終活のススメ

デジタルの持ち物で自分や家族が困らないために…

監修執筆：デジタル遺品を考える会 代表 古田 雄介

見えにくいデジタルの持ち物が死後に迷惑をかけることも

思い出の写真やメールのやりとりだけでなく、ポイントや電子マネー、個人情報など、近年は様々な持ち物がデジタルで扱われるようになっていきます。銀行の通帳を作らずに、インターネットだけで口座を管理しているという人も少なくありません。

デジタルがこれだけ普及すると、自分の身に何かがあってもデジタルの持ち物でトラブルを生まないようにする備え、すなわち「デジタル終活」が重要になってきます。

従来の持ち物と違って、デジタルの持ち物は本

人以外の目に触れにくく、周囲が存在に気づけないことが多いという特徴があります。加えて、最近のパソコンやスマートフォンはとても嚴重なつくりになっているので、パスワードが分からないと中身を見ることもできません。

本人の身に万一のことがあったとき、先に挙げた思い出の写真や個人情報、預金口座の情報などが家族に気づかれずにまわってしまう可能性が高いわけです。実際に、近年は下記に例示するようなトラブルが発生しています。

●実際にあったデジタル遺品トラブル●

事例①

亡夫のスマートフォンの中身が空っぽになった

詳細：遺品整理のために亡夫のスマートフォンを開こうと、思いつくパスワードを何度も入力しているうちに、初期設定画面が表示されるようになった。結局中身は一切不明のまま。「亡夫が残してくれたかもしれない遺品(データ)は失われてしまいました」。



対策：スマートフォンには、パスワードを一定回数連続でミスすると中身を初期化する設定が選べる端末があります。推測での入力は3回程度に留めるのが安全です。

事例②

故人の定額制サービスが解約できない

詳細：急死した息子のクレジットカードを解約しようとしたら、「債権が残っているのでできません」と言われた。債権は定額制サービスの月額料金だった。長らく特定できず、「すべて片付くまでに1年近くかかってしまいました」。



対策：定額制サービスの解約は契約した窓口で行うのが原則ですが、故人が残した契約をすべて把握するのは困難です。お金の流れを慎重に観察して対応していくしかありません。

事例③

ネット銀行の預金口座が後から見つかった

詳細：独居していた兄の遺品整理と葬儀、相続を済ませたあとで、兄のパソコンから未見の銀行口座を発見。800万円ほど残高があり、遺産分割協議をやり直す羽目になった。



対策：ネット銀行の口座情報は通帳やカードなどから発見できないケースがしばしばあります。パソコン等の履歴から、あるいはお金の流れなどから慎重に見つけましょう。

デジタルの大掃除をして重要項目を把握しましょう

元気なときにはとても便利ですが、いざ遺品となると厄介な存在になりがちなのがデジタルの持ち物です。ゆくゆく家族や周囲、そして自分自身を困らせないために、日頃からできる範囲で整理しておきましょう。



デジタルの持ち物は多岐にわたるので、すべてを棚卸しするのではなく、とりわけ重要なものだけリストアップして管理する方法が現実的です。全体を把握するコツは、デジタル機器とその中身、インターネット上にあるものを区別してチェックすることです。右のリストを参考にして、ご自身の持ち物を振り返ってみてください。

作業の途中で、保存場所がバラバラになっているデータがあれば一箇所にまとめるのもいいですし、「これはもう使っていないな」という定額制サービスが見つかったら、解約するのも経済的です。「デジタルの大掃除」をする意識で取り組むと楽しいかもしれません。



●デジタルの持ち物チェックシート

メモ欄

デジタル機器	<input type="checkbox"/>	スマートフォン	
	<input type="checkbox"/>	パソコン	
	<input type="checkbox"/>	タブレット	
	<input type="checkbox"/>	外付けドライブ	
	<input type="checkbox"/>	USBメモリー	
	<input type="checkbox"/>	その他の重要な機器	
機器の中身	<input type="checkbox"/>	思い出の写真と動画	
	<input type="checkbox"/>	仕事のデータ	
	<input type="checkbox"/>	重要な連絡先、メール	
	<input type="checkbox"/>	電子マネー	
	<input type="checkbox"/>	その他の重要データ	
インターネット上	<input type="checkbox"/>	ネット銀行の口座	
	<input type="checkbox"/>	FXなどの金融資産	
	<input type="checkbox"/>	クラウドサービス	
	<input type="checkbox"/>	定額制サービス(サブスクリプション)	
	<input type="checkbox"/>	SNS	
	<input type="checkbox"/>	ショッピングサイト	
	<input type="checkbox"/>	ゲームサイト	
<input type="checkbox"/>	その他の重要サービス		

スマートフォンのパスワードは伝わるように備えを

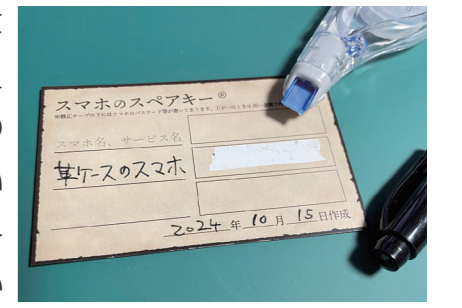
重要なデジタルの持ち物が把握できたら、メインで使っているスマートフォン、もしくはパソコンのパスワードだけは紙に書き出して、保険証書などの重要な書類と一緒に保管しておきましょう。万が一のときに家族に見つけてもらうためです。

メインで使っているスマートフォンはおのずとデジタルの持ち物の入り口になるので、そのパスワードは何より重要な鍵になります。有事でもこの鍵が家族に伝われば、デジタルの持ち物もどうにか見える化できるでしょう。

ただし、元気な頃にパスワードを見られてしまう

のは避けたいところです。そのため、パスワード部分だけ修正テープを3回重ね貼りしてマスキングすることをお勧めします。いざというときはコイン等で削れますし、普段は情報を隠しておけます。

現実の大掃除とまとめてやると負担が大きくなるので、過ごしやすい今のうちにスッキリさせるのはいかがでしょうか？



光沢のある名刺大のカードに油性ペンで書いて修正テープを貼りましょう

終活として活用できる制度

終活として活用できる制度には、死後事務委任契約や財産管理契約等があります。死後事務委任契約の内容を定めるには、十分に注意する必要がありますので、ご検討の際には、法律の専門家である弁護士にご相談すると良いでしょう。